

ときめき★ インタビュー



プロフィール
本名：塩谷良美(しおや よしみ)。1981年川口市生まれ。小学2年生のとき越谷市に転入。大袋小、大袋中卒業。高校在学中にプロテストを受け、99年にデビュー。昨年11月、後楽園ホールでオールパンフィック選手権のタイトルを獲得するが、2月のタイトルマッチでのけがのため現在は休業中。この夏に復帰予定。

地方巡業が多いので 越谷へ帰るとほっとします

「プロレスは最強の総合格闘技だと思っています。辛くて苦しいときが9割、華やかで楽しいときが1割」とさわやかな笑顔で話すHIKARUさん。ほかの誰よりもプロレスが大好きだと話します。2600グラムで生まれた小さな女の子が、170センチ70キロの堂々たる体格に成長し、格闘技の世界で大活躍。多くのファンから熱狂的な声援を受け、今や日本の女子プロレス界の主役の座を担っています。

HIKARUさんは、子どものころからスポーツ大好きで、小学校ではサッカー、中学校では3年間ソフトボールを続けました。小学生までは背が高い方ではなかったけれども、中学1年生の夏休み中に10センチも身長が伸びたとか。「わたしの育ったところは、越谷でも田んぼが多く緑が豊かなところなんです。小さいころは、網を持って野原を駆け回ったり、ザリガニを

取ったりして遊びましたね。皆仲よしでいじめなんてない、人情のある住み心地のよいところですよ。近所の家でご飯をごちそうになったり、悪いことをすれば、どこの子かまわすしかられたりしてしましたよ。こういうのはずっと残っていて欲しいことですね」

プロレスとの出会いは小学4年生のとき。巡業で来ていた豊田真奈美さんを見て、その強さにあこがれプロレスラーを目指すようになったそうです。しかし、プロレスは大げかと隣合わせの危険なスポーツ。家族には猛反対されました。それでも夢をあきらめきれないHIKARUさんは、家族の反対を押し切って大好きな道に進んでいきました。今では、一番反対していたお母様も応援してくれ

夏の復帰に備えての
トレーニングも順調。
これからの活躍が期待されている
Hikaruさんにお話を伺いました。



昨年、第45代オールパンフィック王者に



女子プロレスラー
HIKARU (ヒカル) さん

「HIKARUという名前は、全日本女子プロレスに入ったときにマネージャーが付けてくれました。リングの上で光り輝くようにという願いが込められています。HIKARUになってからファンが増えたような気がします。名前に負けないように、名前に恥じないようになると頑張ってきたからでしょう」

「レスラーは絶対的な強さがないと続けられないとHIKARUさん。厳しさに耐えきれず辞めていく人が多い世界です。リングに上がったら、肉体の強さはもちろん、気力も大切だと話します。

「チャンピオンになったら、追う立場から追われる立場になって、すごいプレッシャーを感じました。『絶対に負けられない。このベルトは誰にも渡さない』と、それまで以上に練習するようになりましたね。前へ前へと常に上を目指す心は変わらず持っていますよ」

「今回のけがを含め、嫌なことや挫折を何回も味わってきたと話すHIKARUさん。「プロレスが好き。好きだからこそ、ここにいるんだ」という気持ちがあったから

地方巡業を含めると年間試合数が100を超えるというHIKARUさんですが、月に2、3回は実家のある越谷に帰っていたそうです。外に出てみて、より一層越谷のよさがわかったとか。

「絶対に負けられない。このベルトは誰にも渡さない」と、それまで以上に練習するようになりましたね。前へ前へと常に上を目指す心は変わらず持っていますよ」

もうすぐ試合に復帰の予定。今は、けがの様子を見ながらジムでのトレーニングに励んでいます。現在の女子プロレスを超えるものを発信していきたいと話すHIKARUさん。郷土愛にあふれ、夢と希望でいっぱい元気な女性です。